

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	回答数	回答率	改善目標、工夫している点など
体制・環境整備	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	4			4	100%	
	職員の配置数は適切であるか	4			4	100%	
	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		2	2	4	100%	・危険がないように職員間で連携して見守るようにしている。
業務改善	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	4			4	100%	
	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	2	1	1	4	100%	・日々の活動では、保護者の声を大事にしなが活動を行っている。年に一度本部から保護者向けのアンケートが出された際には、」それに基づいて意見を反映した活動を行っているが、POCCOかみいしだとしてアンケート調査の実施を行っていないため、いいえにした。
	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	2	1	1	4	100%	・公開しているか否かの説明を受けていない。
	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	2	1	1	4	100%	・外部評価がいつ、どのように行われ、その評価がどのようにして上から降りてきているのかを把握していない。
	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	2	2		4	100%	
適切な支援の提供	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	3	1		4	100%	
	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	2	2		4	100%	・標準化されたアセスメントツールとはどのようなものなのかが、把握できていないが、アセスメントシートに基づいて個別支援計画を作成しているため、その目標に向かって適切な支援が行われるように、活動や個別指導を日々行っている。
	活動プログラムの立案をチームで行っているか	3	1		4	100%	
	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	3	1		4	100%	
	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	3	1		4	100%	・人事異動等で子どもとの関わりがまだ少なく個々の課題が全て把握できていないため、きめ細やかな設定までには至っていない。
	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	4			4	100%	
	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	4			4	100%	
	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	1	3		4	100%	・必ずではないと言える。利用児に対する気付きがあれば、逐一報告をするようにはしているが、全職員間で振り返りをする活動は少ないように思える。活動終了後すぐは送迎に出かけてしまうことがほとんどであるため、翌日の朝礼の際に、昨日の振り返りをしっかりと行う時間を作るべきであると考えている。 ・送迎しながら退勤することが多いため、翌日に話し合いをして気付いた点等を共有するようにしている。
	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	3	1		4	100%	
	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	3	1		4	100%	
	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	4			4	100%	
障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	2	2		4	100%		
学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	4			4	100%		

関係機関や保護者	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	1	3		4	100%	・今後リハビリや支援学校への見学をしながら医療機関や学校とも連携を取っていく予定。
	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	3	1		4	100%	
	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	1	3		4	100%	
	児童発達支援センターや発達障害者や支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		3	1	4	100%	・自らそうした助言や研修を受ける機会はないが、そうした機関や担当の方と話をされた職員から話を聞いて支援に移そうと努めている。実際に、色々な職員がさまざまな関係機関の方々と関わりを持つことができる機会が増えていくといいな、と考える。 ・専門機関と連携を図りながら支援を行っていきたいが連携を図るまでには時間が必要である。
	放課後等児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		1	3	4	100%	・支援学校に通っておらず、通常の小中学校に通っている利用児が多い(個々で学校においてさまざまな児童・生徒との関わりを持っている利用児が多い)ため、事業所としては特別にそのような機会を取り入れてはいいように思う。しかし、支援学校に通っている利用児もいるため、事業所としてそのような活動を今後積極的に取り入れていきたいと考える。 ・機会があれば交流していきたいと思っている。
	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	2	2		4	100%	参加はしているが、人事異動で移動してきたこともありまだ1回の参加ではある。
	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	4			4	100%	
保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	2	1	1	4	100%	・状況を聞いたりアドバイスもするが、ペアレント・トレーニングまでには至っていない	
保護者への説明責任等	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	3	1		4	100%	
	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	3	1		4	100%	
	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	1	2	1	4	100%	・保護者の皆さまがどのような活動をしているかは、把握できていない。しかし、保護者間の関わり合いの機会を増やす一環として、今年から数か月に1度のペースで、保護者も集まれるCafeの実施を試みる。
	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	3	1		4	100%	・入社してまだ浅いため、苦情には至っていないが、保護者との会話等は大切にしながら関わっている。
	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	4			4	100%	
	個人情報に十分注意しているか	4			4	100%	
	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	4			4	100%	
非常時等の対応	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		1	3	4	100%	・利用者の家族を招待することはある。今後は地域住民との交流も考えていきたい。
	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者が周知しているか	2	2		4	100%	・マニュアルはあるものの、周知までには至っていない。
	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	2	2		4	100%	・日常的にそうした訓練や話をしている様子はない。訓練を行わずとも、活動を始める前の少しの時間に、災害時の行動について話を適宜することは必要であると考え。
	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応しているか	1	2	1	4	100%	・虐待の防止に努められるよう、職員間で利用児の家庭や生育環境等の情報共有や迅速な対応が出来るような連携は日々欠かさないが、それに関する研修は行われていない。 ・研修には参加しているが、虐待についての研修はまだ参加したことがないため参加してみたいと思っている。
どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	2	1	1	4	100%	・どういった時に身体拘束を行うかといった件に関しての、話し合いは行われていない。実際にそうしなければならぬ事態が発生したときは、個人の判断で動くことになるのではないかと、思うが、全職員間であらゆるケースを見通して、その対応を考え、周知徹底を図る機会が必要であると考え。	

食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	3	1		4	100%	・検査結果に基づいて保護者と対応を相談しているが、統一された対応ができていないため今後対応を統一できるようにしていく。
ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	3	1		4	100%	ヒヤリハットは実施され、ファイリングされ、いつでも閲覧できる状況にある。

(様式5)

事業所職員向け 放課後等デイサービス自己評価表

記入年月日:令和 2年 3月 30日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	4		面積的には十分なスペースがあるが、形状が凹なので、その形状を活かして、活動に変化を持てるよう工夫している。
	2	職員の配置数は適切であるか	4		配置基準を1人前後上回る人員配置がされている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	2	2	訓練室は現状部屋が手すりにより区画されており、その部分に置いて段差があるが、肢体不自由の児童が殆どいないので、寧ろその区画等を利用し、活動に変化を加えることができるよう工夫している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	4		事業所全職員が会社の方針・目標に基づき、事業所方針・目標及び個人方針・目標を掲げ、計画表を作成して、毎月モニタリングを行っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	3	1	・日々の活動では、保護者の声を大事にしながら活動を行っている。年に一度本部から保護者向けのアンケートが出された際には、それに基づいて意見を反映した活動を行っているが、POCCOかみいしだとしてアンケート調査の実施を行っていないため、いいえにした。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	3	1	・公開していることが一部の職員に伝わってなかったので、しっかりと伝えなければならない。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	3	1	第三者評価委員による事業所内視察は行っており、主にクレームや事故等の検証を行っているが現状不定期なので今後開催日程を計画化する必要がある。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	4		学校長期休み以外の毎月、平日の午前中3時間顧問心理士による研修会を行っている。今後は脳科学的な視点からの研修会を企画して行く必要がある。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	4		SM社会生活能力検査を基準としてアセスメントを行っている。年に2回のモニタリングと1回/年の検査を行い、個別支援計画に反映している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	4		SM社会生活能力検査を基準としてアセスメントを行っている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	4		SM社会生活能力検査等で得た情報を元に各6つの領域(自立・移動・作業・コミュニケーション・集団参加・自己統制)でプログラムへ反映すべく進めている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	4		月曜から土曜日まで日替わりでプログラム(運動・SST・創作・生活・野外活動)を実施している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	4		長期休暇以外は曜日別のプログラムを中心にし、長期休暇は野外活動や社会施設見学等を通して子ども達の視野等を広める活動を行っている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	4		集団活動はカリキュラム化、プログラム化が進んでいるが個別支援に課題があると考えている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	4		・その日の活動内容確認をしている
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	4		支援終了後翌朝職員間で必ず打ち合わせし、ふりかえを行うように決められているが、現実には100%ではない。今後は必ず出勤職員全員での打合せを行うようにする。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	4		記録は児童毎に担当者を決め、毎日記録している。

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	4		2回／年のモニタリングと支援計画の改訂を期日で実施している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	4		複数組わせているが、職員のガイドラインへの認識が薄い。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	4		児童発達支援管理責任者のみが参加し、その他の職員が参画できていないので今後関係するスタッフも参加できるよう配慮することが課題。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	4		適切に行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	4		・今後リハビリや支援学校への見学をしながら医療機関や学校とも連携を取っていく予定。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	4		行われていない。今後より良い療育を行っていくためにも、情報共有を行い、相互理解に努めて行く必要がある。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	4		行われていない。今後は生活介護、就労継続支援事業所等と連携し、卒業後の進路への支援まで繋げるようにしていく必要がある。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	3	1	・自らそうした助言や研修を受ける機会はないが、そうした機関や担当の方と話をされた職員から話を聞いて支援に移そうと努めている。実際に、色々な職員がさまざまな関係機関の方々と関わりを持つことができる機会が増えていくといいな、と考える。 ・専門機関と連携を図りながら支援を行っていきたいが連携を図るまでには時間が必要である。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	1	3	・支援学校に通っておらず、通常の小中学校に通っている利用児が多い(個々で学校においてさまざまな児童・生徒との関わりを持っている利用児が多い)ため、事業所としては特別にそのような機会を取り入れてはいないと思う。しかし、支援学校に通っている利用児もいるため、事業所としてそのような活動を今後積極的に取り入れていきたいと考える。 ・機会があれば交流していきたいと思っている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	4		参加はしているが、人事異動で移動してきたこともありまだ1回の参加ではある。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	4		日常は連絡帳等で情報共有している。SM検査により共通認識を深めているつもりではあるが、要している時間が足りないと感じている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	3	1	学校長期休み以外の毎月、顧問心理士が来て、児童発達管理責任者等が同席し、保護者の相談会を開催している。しかし、ペアレント・トレーニングとは言えないのかも知れない。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	4		利用契約時には適切に行っているが、その後のフォローが足りないと感じている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	4		保護者及び利用児童の悩みに関して、毎月顧問心理士と共に自発管及び関るスタッフが同席し助言、支援を行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	3	1	保護者会がしっかりと設立されていないので、今後早期につくらなければならない。現在、保護者間の関わり合いの機会を増やす一環として、今年から数か月に1度のペースで、保護者も集まれるCaféの実施を計画している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	4		事業所の玄関付近の分かりやすい場所に苦情箱を設置しているが中々意見が寄せられないので検討が必要。しかし、微かな不満を感じるお気には苦情として取り上げ社内でも共有している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	4		POCCO通信(A3カラー版)で活動等の状況を毎月お伝えしているが、今後より効果的な方法を検討したいと考えている。

	35	個人情報に十分注意しているか	4	入社時に機密事項遵守の制約が交わされているが、適時確認が必要と思われる。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	4	現在は連絡帳とモニタリング時の面談が主体だが、今後より密接な情報共有の為に工夫が必要を考えている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	1	3 ・利用者の家族を招待することはある。今後は地域住民との交流も考えていきたい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	4	全てマニュアル整備されているが、適切な運用がなされているかが疑問。保護者への具体的な内容までは主値されていないのが今後の課題。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	4	地震・火災・洪水それぞれの避難訓練を実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	3	1 虐待防止研修は1回／年実施している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	3	1 身体拘束についての研修を行い、保護者へも万一の時の了解を得てはいるが、身体拘束の定義がしっかりされていないかもしれない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	4	・検査結果に基づいて保護者と対応を相談しているが、統一された対応ができていないため今後対応を統一できるようにしていく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	4	ヒヤリハットは実施され、ファイリングされ、いつでも閲覧できる状況にある。

事業所における自己評価結果(公表)

公表年月日:令和 2年 4月 17日

事業所名 POCCOかみいしだ

		チェック項目	はい いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	面積的には十分なスペースがあると考えるが、形状が凹なので、その形状を活かして、活動に変化を持てるよう工夫している。	当施設物件は形状が凹なので、可能であれば平坦で形状も縦横比が一定の正方形又は長方形の物件を検討したいと考えている。
	2	職員の配置数は適切である	4	配置基準を1人前後上回る人員配置がされている。	今後も必要な人員を状況に応じてしっかり配置して行く。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	2 訓練室は現状部屋が手すりにより区画されており、その部分に置いて段差があるが、肢体不自由の児童が殆どいないので、寧ろその区画等を利用し、活動に変化を加えることができるよう工夫している。	当施設物件は形状が凹なので、可能であれば平坦で形状も縦横比が一定の正方形又は長方形の物件を検討したいと考えている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	事業所全職員が会社の方針・目標に基づき、事業所方針・目標及び個人方針・目標を掲げ、計画表を作成して、毎月モニタリングを行っている。	全員が参画しての方針・目標管理であるが、実行の内容が計画倒れに終わっている傾向が見受けられる。今後はPDCA内容の評価を的確に行われることが必要。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	1 ・日々の活動では、保護者の声を大事にしながら活動を行っている。年に一度本部から保護者向けのアンケートが出された際には、Jそれに基づいて意見を反映した活動を行っているが、POCCOかみいしだとしてアンケート調査の実施を行っていないため、いいえにした。	保護者評価を受け改善に向けての取り組みの実施方法をより具体的に検討する。場合によっては評価基準を設け、評価することが必要。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	1 ・公開していることが一部の職員に伝わってなかったため、しっかりと伝えなければならぬ。	ホームページで公開しているが、その存在の周知を必要があるので、今後会報でも周知していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	1 第3者評価委員による事業所内視察は行っており、主にクレームや事故等の検証を行っているが現状不定期なので今後開催日程を計画化する必要がある。	外部評価も検討するが、内部監査制度も導入して行く。
適切な 支援の 提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	4 学校長期休み以外の毎月、平日の午前中3時間顧問心理士による研修会を行っている。今後は脳科学的な視点からの研修会を企画して行く必要がある。	現在社会生活能力向上への取り組み的研修が主であるが、今後は脳機能向上へ向けての知見を得るべく研修を行っていく。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4	4 SM社会生活能力検査を基準としてアセスメントを行っている。年に2回のモニタリングと1回/年の検査を行い、個別支援計画に反映している。	現在の取り組みを継続し、効果的な活動プログラムを実施するよう工夫し、より効果的な支援計画の作成に努める。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	4 SM社会生活能力検査を基準としてアセスメントを行っている。	社会生活能力のアセスメントは行われているが脳機能に関してのアセスメントがなされていないので、今後システム導入を検討している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	4 SM社会生活能力検査等で得た情報を元に各6つの領域(自立・移動・作業・コミュニケーション・集団参加・自己統制)でプログラムへ反映すべく進めている。	個々の児童の特性を考慮しての活動計画をチームでより掘り下げて検討する習慣とする。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	4 月曜から土曜日まで日替わりでプログラム(運動・SST・創作・生活・野外活動)を実施している。	現在グループで放デイ6事業所運営していることから、活動プログラムを全社で共有できる環境を整え、より多くの効果的活動を実施して行く。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	4 長期休暇以外は曜日別のプログラムを中心とし、長期休暇は野外活動や社会施設見学等を通して子ども達の視野等を広める活動を行っている。	様々な活動を可能な限り個別特性まで関連付けその効果を説明できるようなところまで高めるべく取り組みを行う。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4	4 集団活動はカリキュラム化、プログラム化が進んでいるが個別支援に課題があると考えている。	個別活動、集団活動両面において、その改善効果等、より専門的に分かりやすく説明できる活動計画を作成し、個別支援計画に反映させるようにしていく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	4 ・その日の活動内容確認をしている	現在予め計画された活動プログラムには役割分担等も計画されている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	4 支援終了後翌毎朝職員間で必ず打ち合わせし、ふりかえを行うように決められているが、現実には100%ではない。今後は必ず出勤職員全員での打合せを行うようにする。	約1年半前より支援業務管理システムをクラウド上で運営管理されているため、全ての職員に情報共有可能なインフラ整備されている。今後はより効果的なシステム運用の検討が重要と考えている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	4 記録は児童毎に担当者を決め、毎日記録している。	毎日の記録がクラウド上で確認可能なシステムの為、管理者による検証が容易な環境が整っているため、今後は改善に向けての取り組みを進める。
	18	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4	4 2回/年のモニタリングと支援計画の改訂を期日で実施している。	情報の共有がクラウドで可能となっているため、今後は統括責任者が介入し、内容の検証等を行っていく。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	4	4 複数組わせているが、職員のガイドラインへの認識が薄い。	今後ガイドラインの読み込みをグループ全体で実施し、求められるサービスの充実に努めていく。	
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	4 児童発達支援管理責任者のみが参加し、その他の職員が参画できていないので今後関係するスタッフも参加できるよう配慮することが課題。	今後は完成するスタッフがより参加可能な体制整備を行い、利用児童に対し、きめ細かい支援ができる体制とする。	

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4	適切に行っている。	今後も学校との連絡調整を綿密に行い、より綿密な支援活動に結びつけていきたい。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4	・今後リハビリや支援学校への見学をしながら医療機関や学校とも連携を取っていく予定。	医療的ケアを必要とする児童が殆どいないが、その他の児童についても必要に応じて主治医と連絡体制をとる必要があると考えている。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	行われていない。今後より良い療育を行っていくためにも、情報共有を行い、相互理解に努めて行く必要がある。	今後、会社として保育所訪問支援等のサービスを検討し、より深い情報共有と相互理解を得て、支援の内容の充実を図って行きたい。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	行われていない。今後は生活介護、就労継続支援事業所等と連携し、卒業後の進路への支援まで繋げるようにしていく必要がある。	今後は障害福祉サービス事業所との連携を深め、利用児童の将来の為への取り組みを強化して行く。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	・自らそうした助言や研修を受ける機会はないが、そうした機関や担当の方と話をされた職員から話を聞いて支援に移そうと努めている。実際に、色々な職員がさまざまな関係機関の方々と関わりを持つことができる機会が増えていくといいな、と考える。 ・専門機関と連携を図りながら支援を行っていきたいが連携を図るまでには時間が必要である。	今後専門機関との連携を推進する。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	・支援学校に通っておらず、通常の小中学校に通っている利用児が多い(個々で学校においてさまざまな児童・生徒との関わりを持っている利用児が多い)ため、事業所としては特別にそのような機会を取り入れてはならないように思う。しかし、支援学校に通っている利用児もいるため、事業所としてそのような活動を今後積極的に取り入れていきたいと考える。 ・機会があれば交流していきたいと思っている。	今後交流方法の検討を行い具現化して行く、	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	参加はしているが、人事異動で移動してきたこともありまだ1回の参加ではある。	協議会等への参加を計画する。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	日常は連絡帳等で情報共有している。SM検査により共通認識を深めているつもりではあるが、要している時間が足りないと感じている。	保護者との双方向の意思交換が可能なウェブシステムが導入されているので、活用を図っていく。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	1	学校長期休み以外の毎月、顧問心理士が来て、児童発達管理責任者等が同席し、保護者の相談会を開催している。しかし、ペアレント・トレーニングとは言えないのかも知れない。	顧問心理士 & 児童発達支援管理責任者同席の相談会の周知を図り、参加を呼び掛けて行く。
	保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	利用契約時には適切に行っているが、その後のフォローが足りないと感じている。	契約時の説明をより充実させていく。
31		保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	保護者及び利用児童の悩みに関して、毎月顧問心理士と共に自発管及び関するスタッフが同席し助言、支援を行っている。	保護者に左記相談会の周知を図り、多くの保護者利用者の相談が可能な状況をつつて行く。	
32		父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	1	保護者会がしっかりと設立されていないので、今後早期につくらなければならない。現在、保護者間の関わり合いの機会を増やす一環として、今年から数か月1度のペースで、保護者も集まれるCaféの実施を計画している。	まずは各事業所単位の保護者会をしっかりと立上げ、交流の機会を増やし、相互理解を深めサービスの充実を図っていく。
33		子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	事業所の玄関付近の分かりやすい場所に苦情箱を設置しているが中々意見が寄せられないので検討が必要。しかし、微かな不満等感じるお気には苦情として取り上げ社内でも共有している。	これまでの苦情に関しては懇切丁寧な対応を行ってきたが、声なき声に耳を傾ける為の工夫をし、小さな不満も吸い上げる努力を通し、サービスの向上に努めていく。	
34		定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	POCCO通信(A3カラー版)で活動等の状況を毎月お伝えしているが、今後より効果的な方法を検討したいと考えている。	現在のPOCCO通信をより効果的な広報となるよう改善を図る。	
35		個人情報に十分注意している	4	入社時に機密事項遵守の制約が交わされているが、適時確認が必要と思われる。	より確実なセキュリティシステムの検討が必要と考えている。	
36		障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	現在は連絡帳とモニタリング時の面談が主体だが、今後より密接な情報共有の為の工夫を考えている。	よりリアルタイムで双方向の意思伝達が可能となるシステムの導入をしているので、そのシステム活用を通して意思疎通、情報共有を行っていく。	
37		事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	3	・利用者の家族を招待することはある。今後は地域住民との交流も考えていきたい。	1年に1回有識者を招き、特別支援講演会を実施している。保護者はもちろん、教師、保育士、行政関係者も多数出席して頂いている。
38		緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	全てマニュアル整備されているが、適切な運用がなされているかが疑問。保護者への具体的な内容までは主値されていないのが今後の課題。	マニュアル類の周知はされているが、今後はより実際の取り組みへと発展させていく。	
39		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	地震・火災・洪水それぞれの避難訓練を実施している。	現在行われている訓練に、消防署や警察署等の支援を要請し、実際の訓練へ高める。	
非常災害	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	1	虐待防止研修は1回/年実施している。	虐待防止及び防犯強化の為、令和2年1月末、全事業所へ防犯カメラの設置をした。

時 等 の 対 応	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	1	身体拘束についての研修を行い、保護者へも万一の時の了解を得ているが、身体拘束の定義がしっかりされていないかもしれない。	身体拘束の定義を確定し、保護者のもとより、職員の理解を徹底し、間違いのないサービス提供に努める。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4		・検査結果に基づいて保護者と対応を相談しているが、統一された対応ができていないため今後対応を統一できるようにしていく。	事業所で、今後は全ての医師の指示書を頂くこととする。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4		ヒヤリハットは実施され、ファイリングされ、いつでも閲覧できる状況にある。	ヒヤリハット活動は現象の深掘に努め、必要に応じて予防処置を施す活動へ深化させる。